

JWLI HAWAII SMMIT2023 経験報告

2023年3月22日～25日

in EAST-WEST CENTER

主催 フィッシュファミリー財団

フィッシュファミリー財団は、ボストンの民間家族財団。財団は、コミュニティを改善し、将来の世代と寄付の喜びを分かち合うという家族の責任の伝統を形式化するために1999年に設立された。財団は現在、移民、危険にさらされている若者、メンタルヘルスに苦しんでいる人々の支援に焦点を当てている。



すばらしい環境を
提供されました。
日本人女性37名参加



学びの会場
イーストウエストセンター



ウェルカムとして
レイをいただく



With フィッシュファミリー財団
厚子・東光・フィッシュさん



同時日本語通訳あり



宿泊先一流ホテル
プリンスワイキキホテル



With JWLIエコシステム新責任者
澤目 梢さん



超絶おいしい
和洋食のモーニング
コーヒーがとても美味しくカリカリベーコン最高！



プラスチックごみの量
を減らすためのウオー
ターボトルが配布され、
ウオーターステーショ
ンがハワイのいたるところにある

ハワイサミットのテーマ

Crisis as Opportunity 危機をチャンスに

- 1, インクルーシブな対話を通じてお互いの違いから学ぶ
- 2, 共通する問題、課題を見つける
- 3, 改善に挑戦し、解決策を探る
- 4, コミュニケーションを通じてネットワークと築き、協業する
- 5, 女性の協働する力を信じる

1日目 (3月22日)

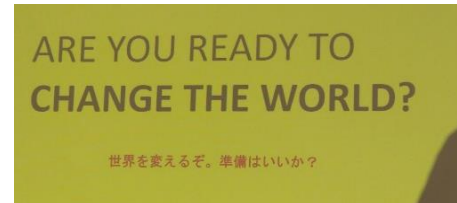
YWCAオアフ CEO 並木則子さん

私は、3日間通して、一番印象に残る言葉は、並木さんが教えてくれた「I am enough」
現代の人は、自分に対し、私は十分であるという気持ちが低いのでは？という問いがとても良かった。
これが満たされれば、自己肯定感がさらに、もっと上がるのではと考える。
理由は、私はこの部分が自分に少し足りない気がした。いつも、何か達成した翌日には、新しい何か違うことを考えている。
これを加えた人生なら、私はきっとウェルビーイング度が高くなるのでは？と何か発見したような気持ちとなり、とてもうれしかった。



バブソン大学准教授 山川恭弘 さん「危機と起業」

他己紹介は、とても面白かった。
自分は、森川さんを交通安全と紹介した。すごいと思ったのが、朝日新聞記者秋山さんをvoiceと紹介した彼女がすばらしいと思った。
Are you ready to change the world?
世界をかえるぞ、準備はいいかの言葉は、自分の協会が運営する空気質コンテストにピッタリだと思ったので、
分かりやすい言葉なので今後、活かしたいと思う。
インボスター症候群は多くの人が苦しむと初めて聞いた言葉だった。私も少しその傾向があるかもしれないと感じた。
これまでは、負けず嫌いと思っていたのだが、それは、自分の達成を内面的に肯定できなかったのかもしれない。
私は、これまで自分のことを楽観的で超プラス思考と思い込んでいたのだが、自分のことを客観的に観察してみようと思う。



2日目（3月23日）

北米伊藤園コーポレトリレーションズ担当副社長 ロナ・テインさん

2001年9月11日のアメリカテロ事件を目の当たりにしたことを聞いた。それは恐ろしい状態と知った。

とても悲しく大変な時もあったが、人生は10%はどう作るか、90%どう受け取るかを私たちにメッセージをくれた。

私は思う。いいことも、悪いこともこれからきっと起こるに違いないが、受け取り方を柔軟な気持ちでいれば、さらに人生が豊かになるのではと思った。



マサチューセッツ州アメリカ自由人権協会人種的正義プログラムディレクター トレイシーグリフィスさん

テーマ：女性の権利

トレイシーさんの、黒人差別のせい、女性差別のせい、具体的にはわからないけれど、差別を受けた具体的な例を聞いた。

それは、ある会議に遅刻をした。司会進行者は、私には、あとで、インターネット情報で遅れた分をみてくださいと言われたが、もう一人、さらに遅刻した男性には、司会進行者は丁寧に資料をみながら説明した。自分は差別を感じたが言えなかった。

その状況は差別であることを問う人がいたので、とてもよかったということと言われ、日本では考えられないことなので、とてもびっくりした。

このアメリカ自由人権協会は、1920年に設立され米国の憲法と法律によって国のすべての人に保証された個人の権利と自由を守り維持するためにある。

例えば人気のない運動であっても、権利のために立ち上がる団体の説明に、私は、「もっと自由を守る」とグローバル感覚を少し頭に入れることができた。



米国精神障害者家族連合会ハワイ支部 事務局長 クミ・マクドナルドさん

テーマ ウェルビーイング

メンタルヘルスの影響は誰にでもあり、今の時代は、あるか、ないかの指標でなく、健康→反応→けが→病気という段階があると私は知った。

最も印象に残っていることは、自分のセルフケアを大切に、「大丈夫、大丈夫自分」と言い聞かせる習慣を持つことがとても響いた。

そして、他人を救う時「あなた自殺しようとしているの?」とか聞くだけでも自殺を止められる可能性があるかと教えてくださったこと。

namihawaiiサイト→ <https://namihawaii.org>

学びとなったのは、無料プログラムの方法は、0円でプログラムが受けられるが、感謝し、1000人くらい募金してくれるシステムであること。

毎年10月に募金キャンペーンをしていることを知り、なるほど！良い仕組みと思った。

また、先生役は、ボランティアとわかり、すごいと思った。

全体的に理解しやすいわかりやすい時間で、挙手をする受講者が多く、私も1回手を挙げられた。なぜなら、クミさんは日本語を話せたからだ。



危機をチャンスに：女性リーダーシップグローバルサミット、世界から約350名聴講者のいるハイブリッド型イベント

基調講演：イーストウエストセンター長 スザンヌ・プアナニ・ヴァレス＝ラム

スーザンさんは、やさしい声質で、英語のスピーチの最後に、やさしく日本語で「頑張って」と何度も言われたのがとても印象的だった。日本では、「頑張る」といわれにくい時代になったような気がする。しかしスーザンさんが優しく頑張って、というと本当に背中を押されたような気持となった。

私は、スーザンさんの優しい雰囲気がとても好きだ。私は、主催者から英語でスーザンさんの目を見て質問しましょう、と1週間前に宿題をいただいた。たった1つしか質問がないので1番に挙手した。質問が終わった後は、JWLI仲間から「加藤さん、すごく成長しているところに感動した」などいってもらえたのはとてもうれしかった。

私がスーザンさんに質問した内容

My name is Minako Katou.

I am a JWLI alumni from the Bootcamp 2019 Nagoya, and I am the president of the Japan Indoor Air Quality Association.

Our association is one of a few organizations in Japan that determine indoor air quality, which is very important right now in post-COVID. Thank you for your great speech. I learned a lot. My question is this;

What is one important thing to do when you try to collaborate or get partners?



with

イーストウエストセンター長
スーザンさん

グローバルパネルディスカッション：

石本めぐみさん、ロズ・リーさん、パトリシア・マサイアスさん、キャシー・ベッツさん、モデレーターアニサ・カマドリ・コスタさん
私が一番印象に残っているのは、危機的な状態という場面を説明する際、石本さんは、東北大震災の時、寝袋生活が長かったのがつらかったときいて、私自身、寝袋では全く寝れないタイプなので、それをされ続けた大変さを聞いたことが、自分もいつ何時そうなるかもしれないと頭をよぎった。そして、今もなお、東北の女性たちを支援し続けているだけでなく、データの裏付けもされ、私も石本さんみたいになりたいと思った。ロズさんの言葉で残っていることは、女性は、情熱的にしゃべりがちだが、秘訣は、簡潔に、短く伝えることが大切だ、と教えてくれた。そして自分自身、健康によく気を配っているので、メールはすぐ返さない、夜は電話をオフにしているので自分の時間を意識してとるようにしていると聞いて賛同と思った。

パトリシアさん、シンガポールから参加している。彼女の言葉は、相手にわかってもらうには、長期的に声をかけ続けることが印象に残った。途中、一般の質問者が、ジェンダー平等を少し食い違った発言を長い時間話したので、パネラー達が順応ある反論を正しくされたのがとても、かっこよかった。（後日、ジェンダーに詳しいJWLIフェローの安藤さんにその模様を解説してもらった）

ハワイ州知事 ジュシュ・グリーンさん

医学博士の彼は、とても堂々と落ち着いた語り口調で、周囲が一目置いている感じがよく伝わった。彼がこのイベントに参加することで、他の議員も参加していると、彼の口から聞いたのでわかった。ハワイの知事を生まれて初めておみかけできたことが、とても貴重な時間である。



懇親会が映画のワンシーンのよう

私は、とても気持ちの良い庭でスピーカーとコミュニケーションがとれ楽しかった。名刺が日本語だったので、英語にすればよかったと後悔した。また会話は、JWLIフェローに助けてもらった。英語の必要性をしみじみ思った。



3日目 (3月24日)

視察

1, ラナキラ・パシフィック 売り上げ 約19億 (年)

身体や知的障害者がトレーニングを受け、ハワイ大学の衣類の裁縫業をし、また食品加工業を行い、高齢者に1週間分の弁当を届ける事業をしている。高齢者にウーバーイーツをするのは、ボランティア者である。

案内を聡明間のある優しい言葉でお話されるCEOのロナさんがされ、手作りのお菓子とスターバックスのコーヒーでもてなしをうけ感激した。また、トレーニングを行うスタッフが丁寧に説明をされ、とても分かりやすかったし仕事場の良いチームワークも感じた。



CEO
ロナさん

通訳
きよのさん



2, YWCAオアフ (1999年～)

スタッフ19人、ボランティア150人、売り上げ6.9億円 (年)

元受刑者の支援として、不要な服やカバンを集め無料で提供している。それを、ドレス・フォー・サクセスという。

玄関には、ブティックのようなマネキンがきれいなスーツ服を身にまとっている。CEO並木さんなどオレンジ色のワンピースを着て

他のスタッフも美しい衣服を着ている。施設は120年前に建築された宮殿のような建築物で、プールや式場、体育館などがある。

私が感じたことは、日本では、就労事業をする場合、華やかな衣装をきることは少ないイメージがあったが、スタッフも室内の装飾もおしゃれでいることは重要な気がした。事業のイメージを美しくみせることは魅せられると感じた。



元受刑者の女性とコミュニケーションできた



サプライズ劇場

厚子さん（80歳）からJWLIの全権を澤目梢さんに譲る発表

私は、もう厚子さんに会えないかと思うととても寂しいと感じた。しかし後継者発表をハワイで大きなイベント後にされ、とてもすばらしいと感じた。

おめでとうございます！！



ご褒美サプライズ

イーストウエストセンターから、プログラム修了証と同窓生としてバッチをいただいた。

今後、イーストウエストセンターフェローとしていろいろな方とネットワークを築いていきたいと思う。

日本には、9,000人いるらしい。

友達できた

4日間JWLIフェロー仲間と学びの時間、食事、買い物、散歩、飲み会などすることで濃厚な日々を過ごしたことでとても仲良くなった。

仕事をしていないけれど、自分のこと、事業のこと、いろいろ相談や雑談などできた。

空気コンテストのお手伝いいいよ、と言ってくれたり、人を集めるためのキャッチコピーを考えてくれたり、ほんとにうれしかった。



ハワイから帰国し私と家族はどうなったか

家族の中で、一番海外に無縁とされていた私が海外に行ったことで、娘もすごくいきたいと言った。また腰の曲がった義理母に、私から、「生きがいのために一緒に海外にいきましょう」と、嫁として背中を押すことができた。

私は、1年前飛行機に乗り鼓膜がやぶれ出血した。数か月前再チャレンジし飛行機に乗った時は、離陸後15分後に鼓膜痛が行きも帰りもあった。いずれも国内線であった。

今回、国外に出るのは20年ぶりで、現地集合、現地解散は生まれて初めてだった。また、渡航時間9時間と長い。

対策として、直前に耳鼻科で耳を確認し、JWLIフェローの仲間が飛行機内で隣に座り、とてもやさしい声かけをしてくれた。

また、事前に毎週火曜日JWLI事務局から様々な準備について丁寧な勉強会をしてくださったおかげで、薬、アイマスクなど準備できた。

結果、生まれて初めて、飛行時間は鼓膜痛が全くなく、快適な飛行機の9時間の旅だった。通気を365日して完璧にできるようになったから成功できたようだ。

今回のすべての体験は、自分にとって大きな大きなエネルギーとなった。今後は、日本国だけにとらわれない思考が生まれた。

残りの半生、私は心から楽しめそうだ。フィッシュファミリー財団、JWLIエコシステムの皆様感謝です。



行きの飛行機は京子さんと乗る



帰りの飛行機は美苗さんと乗る



愛知県メンバーと厚子さん